

日本経済振り返り（2005年度）

景気全般

～2005年度は民間需要の回復から高成長に～

日本経済は、年度前半まで輸出の減速やハイテク部門の在庫調整により景気が踊り場になりましたが、年度後半には海外需要が持ち直し、ITの在庫調整も終了したため、輸出や生産活動が回復しました。また、長期低迷の原因にもなっていた過剰債務、過剰設備、過剰雇用の3つの過剰の調整が終了したことから、日本経済は構造的にも改善が進みました。企業収益が高水準で推移していることから設備投資が増加し、所得の回復や雇用不安の払拭を背景に個人消費も底堅く推移するなど、2005年度は民間需要の回復によって高成長となりました。

物価・金融政策

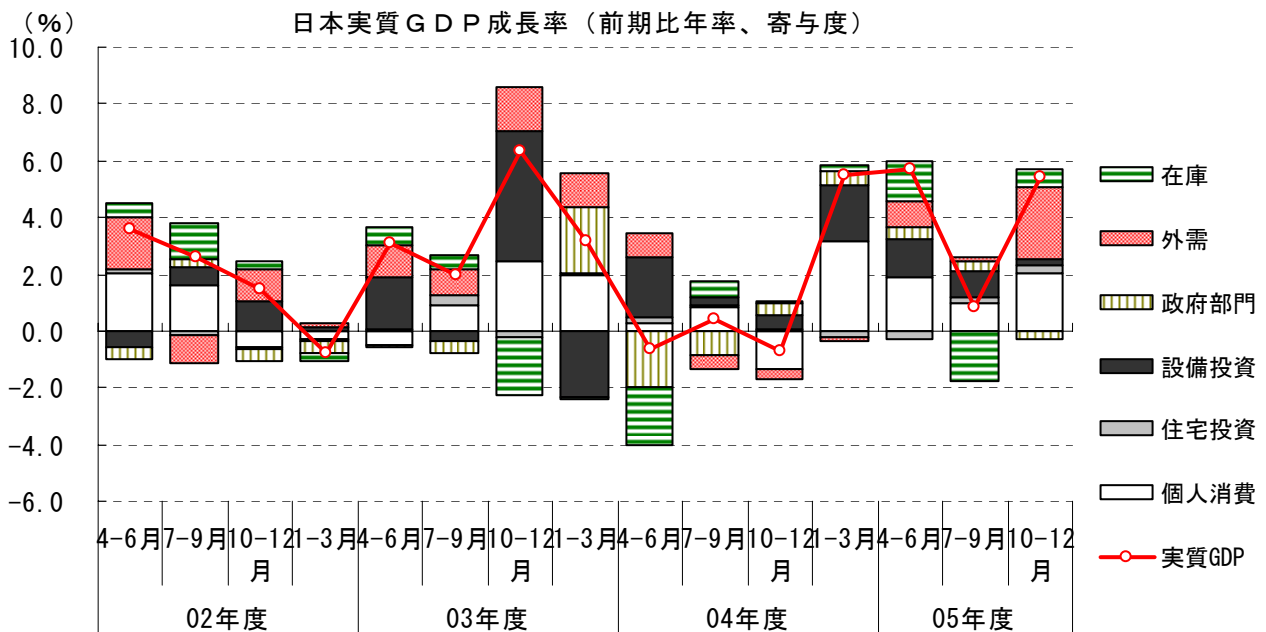
～日銀は量的金融緩和を解除～

景気回復が持続したことにより、05年10-12月期には消費者物価が前年比+0.1%となりました。景気の回復傾向や物価がプラスに転じたことなどをを受けて、日本銀行は2006年3月の金融政策決定会合で量的緩和政策の解除を決定しました。金融市場調節の目標を当座預金残高から無担保コールレート翌日物に変更し、ゼロ金利政策へと移行しました。

対外収支

～経常黒字は昨年対比で減少～

海外経済が底堅く推移したことにより、輸出金額は増加傾向を辿りました。また、海外日系子会社の業績が好調なことや、対外資産の拡大によって利子や配当金の受取が増加したことから所得収支の黒字額も増加しました。しかし、控除項目である輸入金額が原油価格高騰によって大幅に増加したため、経常黒字額は昨年度を下回りました。



（出所）内閣府「国民経済計算」